

県内のインフルエンザの感染者数が7週間続いて増加し、一定点あたり30人を上回ったことからインフルエンザ警報が発表されました。自身や周囲の方への感染予防対策として、ワクチン接種や、こまめな手洗い、うがいに心がけるとともに周知をお願いします。

今回は、母子保健専門研修会Ⅱの報告と産後メンタルヘルスについての情報提供です。



うがいしよう

…… 母子保健専門研修会Ⅱを開催しました（10月25日） ……

「低出生体重児の発達と支援」をテーマに、長野県立こども病院 副院長兼総合周産期母子医療センター長 廣間 武彦先生に、ご講義いただきました。

【参加者】47市町村 111人 保健所 14人 【理解度】4.7点（5点満点）

【満足度】4.6点（5点満点）



長野県PRキャラクター「アルクマ」
©長野県アルクマ

○当日の質疑応答の内容をお伝えします。

Q1 低出生体重児は鉄欠乏性貧血になりやすく、早期の介入が必要とお話がありました。健診等の機会に保健師はどのような助言をしたらよいですか？

低出生体重児の成長は、1歳までに追いつくことが多いです。急激なキャッチアップの時期は鉄欠乏性貧血になりやすく、鉄欠乏はその後の発育・発達に悪影響を与えるので、以下の点に気をつけてほしいです。

①離乳食が遅れないようにする事 ②離乳食で鉄分を積極的に摂取する事 ③人工乳のこどもにはフォローアップミルクの推奨(修正月齢9か月以降)を指導してもよいと思います。

Q2 低出生体重児の保護者からはどのような質問が多いですか？

①体重の増え方について

SAGのこどもは、普通に食事を摂っていても、体重の増えはあまりよくないことが多いです。成長曲線(SD)で体重の増え方を確認して、曲線に沿って成長していれば問題ないことが多いですが、1回は医療機関で検査してみるとよいでしょう。

②便秘について

腹圧がかかりにくいので、便秘になるこどもが多いです。“浣腸が癖になる”ということはないので、心配しなくてよいことを伝えてほしいです。

Q3 お母さんとの対応で保健師はどんなことに配慮したらいいですか？

余計な不安をあおる必要はありません。

心配事を訴えない母親には、あえて説明しなくてもいいですが、保健師は低出生体重児の特徴(発達の遅れ、神経発達症等の発生率が高いこと)について知識を持ち、こどもの成長過程の観察を行ってほしいです。

※アンケートに記入していただきました質問については、次号に掲載します。



〈母子保健推進員所感〉

アンケートに感想を記入していただきありがとうございました。

『低出生体重児の鉄欠乏性貧血に関して知識がなかった。今後の保健指導ではきちんと伝えていきたい』『低出生体重児のリスクについても詳しく知ることができた』の感想が多くありました。

低出生体重児のお子さんを持つお母さんへの保健指導に、鉄欠乏性貧血についての視点も必要になると感じました。

また、安心して子育てができるために、正期産・標準体重で出産できるよう、妊婦への保健指導は大切です。高齢妊娠にともなって増える妊娠高血圧症候群や妊婦の貧血などの課題に対して、各市町村の妊婦への保健指導内容はいかがですか。伴走型相談支援の妊娠8か月面談では、アンケートを取り、必要者に面談をするといった市町村が多い状況です。全数訪問面談するといった市町村もあります。妊娠期を安全に過ごすために、伴走型相談支援も有効的に実施したいものです。



..... 情報提供 産後メンタルヘルス（支援者への相談支援）

10月31日に、信州大学医学部周産期のこころの医学講座の村上 寛先生、国立成育医療研究センターの立花 良之先生が主催する、市町村の保健師と周産期メンタルヘルスに関する課題や対応を相談する「よろず相談会」に、信州母子保健推進センターも参加しました。（10月18日メールにて市町村に情報提供）今回は村上先生から事例提供があり、市町村との連携について検討されました。直接医師からのアドバイスをもらえる良い機会と思いました。また、立花先生から「こころSOS」について情報提供いただきました。困っているケースや他視点からの助言がほしい方など、参加してみたい方はいかがでしょうか。

信州大学医学部周産期のこころの医学講座 「よろず相談」

開催日時：2週間に1回程度 12:00～13:00
Zoomによるオンライン開催
内 容：事例検討や周産期メンタルヘルス・母子保健に関するテーマを情報共有
対 象 者：市町村等保健師
※よろず相談の窓口は村上先生ですが、参加希望の方は、当課（boshi-shika@pref.nagano.lg.jp）までお問い合わせください。
特に発言をしなくてはいけないなどないので、気楽に参加できます。

※次回は11月15日（水）です。

妊産婦と子どもの医療相談支援センター 「こころSOS」

令和5年度厚生労働省自殺防止対策事業で「こころSOS」が開設されました。

開設時間：平日月曜日～金曜日 9:00～17:00
内 容：メンタルヘルスの不調のある妊産婦などの対応について、専門家チームが見立てを行い助言・相談対応
対 象 者：市町村等で妊産婦などに関わる保健師
電話番号：080-4870-9058
03-3415-3811
E-mail：sos@yorisou.or.jp

..... 里帰り出産をする妊産婦への支援について.....



令和5年9月21日「里帰り出産をする妊産婦への支援について」（こども家庭庁 成育局母子保健課発出）を市町村あてにメール発信しました。

（内容のポイント）

1. 伴走型支援における妊娠8か月頃の面談においては、里帰り予定の妊婦に対し、里帰り先で妊婦健診や産後ケア事業等の母子保健サービスを受けた際の償還払いの手続き等、里帰り出産をする際に必要な情報を提供すること。
2. 里帰り先の市町村において妊娠・出産・子育てに関する支援が必要となった場合には、住民票所在地の市町村に相談・連絡するように説明すること。
3. 妊産婦への支援を実施するために必要な調整を行うとともに、里帰り先の市町村と連携をし切れ目のない支援の提供に努めること。
4. 特定妊婦については、従来の取扱いとおり、本人の同意の有無に関わらず、里帰り先の市町村に対し、必要な支援を実施するための情報提供を行うこと。
5. 里帰り中に支援を行った場合は、妊産婦の同意の上で、住民票所在地の市町村へ書面等で報告し、切れ目のない支援につなげること。

里帰り産後をする妊産婦への切れ目のない支援について、検討をお願いします。



市町村からの お問い合わせ

母子手帳アプリの導入を考えています。活用できる補助金等がありますか。

【回答】 こども家庭庁が行っている母子保健医療対策総合支援事業「10 母子保健対策強化事業」の「⑤その他の母子保健対策強化に資する取組」に該当しますので、母子保健衛生費国庫補助の活用をご検討ください。

-----***-----**-----*-----**-----***-----

お読みいただいたご感想・ご意見をお寄せください。お待ちしております。



担当圏域	母子保健推進員	連絡先
佐久・上小・飯伊・長野・北信	小 山	長野県庁 保健・疾病対策課 026-235-7141（直通電話）
諏訪・上伊那・木曾・松本・大北	嶋 田	